



株式会社 竹内製作所

2023 年 2 月期決算説明会

2023 年 4 月 24 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 竹内製作所
[企業 ID]	6432
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 2 月期決算説明会
[決算期]	2023 年度 第 4 四半期
[日程]	2023 年 4 月 24 日
[ページ数]	35
[時間]	16:00 – 16:32 (合計：32 分、登壇：32 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 竹内 敏也 (以下、竹内) 取締役経営管理部長 小林 修 (以下、小林) 経営管理部 ESG 推進課長 阪井 大志 (以下、阪井)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：定刻となりましたので、ただ今より、株式会社 竹内製作所、決算説明会を開催いたします。

はじめに、出席者の紹介をいたします。代表取締役社長、竹内敏也でございます。取締役経営管理部長、小林修でございます。経営管理部 ESG 推進課長、阪井大志でございます。以上、3名でございます。

終了時刻は 17 時を予定しております。

なお、質疑応答は、会場からの質問を優先し、その後、Zoom ウェビナーご参加者からの音声での質問、テキストでの質問という順番にて進めます。

それでは、取締役の小林よりご説明いたします。

決算のポイント (2023年2月期・実績)

TAKEUCHI
From World First to World Leader

(1) 旺盛な製品需要により、販売台数は米国で大きく増加、欧州も好調

- 北米の販売台数は **+15.5%** (上期:+24.1%、下期:+7.5%、対前年同期比)
- 欧州の販売台数は **+4.7%** (上期:▲10.2%、下期:+25.3%、対前年同期比)
- トータル販売台数は **+9.1%** (上期:+2.7%、下期:+16.6%、対前年同期比)

(2) 売上高、利益面ともに**過去最高** (売上高は+27.0%、営業利益は+19.5%、対前期比)

- 金利上昇と建材不足により住宅市場は軟化したが、製品需要は依然好調
- 欧米ともに水道管やガス管等の生活インフラ工事の活況が続く
- 原材料価格の上昇や**運搬費の高騰**等の減益要因はあったが、増収効果と値上げ、為替影響により大幅な増益

当第4四半期から運搬費は軟化

(単位:億円)

	2022年2月期 (前期)					2023年2月期 (当期)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
販管費	29	31	31	33	125	44	61	64	47	218
うち運搬費	13	15	15	17	62	26	41	43	27	138

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

小林：経営管理部長の小林でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、私から、2023年2月期連結業績の実績および今期の通期予想をご説明いたします。

2ページをご覧ください。2023年2月期の実績につきまして、前期と比較したポイントをご説明いたします。

まず販売台数ですが、製品需要は引き続き旺盛で、欧米ともに水道管やガス管等の生活インフラ工事の活況により米国で大きく増加し、欧州でも好調でした。

この結果、北米の販売台数は15.5%の増加、欧州の販売台数は4.7%の増加、全体では9.1%の増加となりました。

北米と比べて欧州の販売台数の伸びが低調だった理由は、前期末時点での製品在庫の不足と、期中での本社からの供給が不足したことによるものです。

為替による追い風もあり、連結売上高は27%の増収、連結営業利益は19.5%の増益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



(3) 高水準の受注が継続

(単位:億円)

	2022年2月期 (前期)					2023年2月期 (当期)				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
受注高	601	529	635	531	2,298	665	642	470	579	2,358
受注残高	717	837	1,147	1,338	—	1,580	1,786	1,788	1,907	—

(4) 一部機種に装着する電子部品が不足 (2021年8月～)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

3

3 ページをご覧ください。

電子部品の不足により、引き続き一部の機種において、イメージ図でお示しするような暫定措置をとっております。

入荷遅れの電子部品が未装着の仕掛品を船便で先行出荷し、遅れて入手した電子部品は後を追うように空輸して現地で後付けすることで、販売への影響を最小限にとどめております。

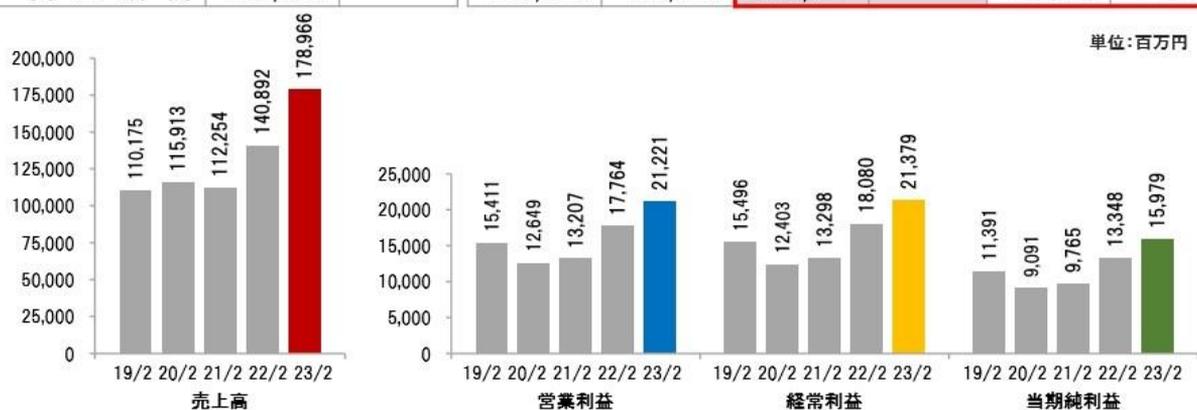
この対応が依然として続いている影響が、当期末時点での仕掛品増加の一因となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結業績ハイライト (2023年2月期・実績)

単位:百万円	2022年2月期		2023年2月期					
	通期	売上比率	上期	下期	通期	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	140,892	—	86,033	92,932	178,966	—	+38,074	+27.0%
■ 営業利益	17,764	12.6%	9,328	11,892	21,221	11.9%	+3,456	+19.5%
■ 経常利益	18,080	12.8%	10,339	11,039	21,379	11.9%	+3,298	+18.2%
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	13,348	9.5%	7,663	8,316	15,979	8.9%	+2,631	+19.7%
設備投資額	4,420	3.1%	4,959	3,670	8,629	4.8%	+4,209	+95.2%
減価償却費	1,586	1.1%	780	1,258	2,039	1.1%	+452	+28.5%
受注高	229,862	—	130,833	105,030	235,864	—	+6,002	+2.6%
受注残高	133,849	—	178,649	190,747	190,747	—	+56,898	+42.5%



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

4 ページをご覧ください。連結業績ハイライトをご説明いたします。

売上高は 1,789 億 6,600 万円、営業利益は 212 億 2,100 万円と、過去最高となりました。

なお、営業利益の増減要因につきましては、後ほど 8 ページでご説明いたします。

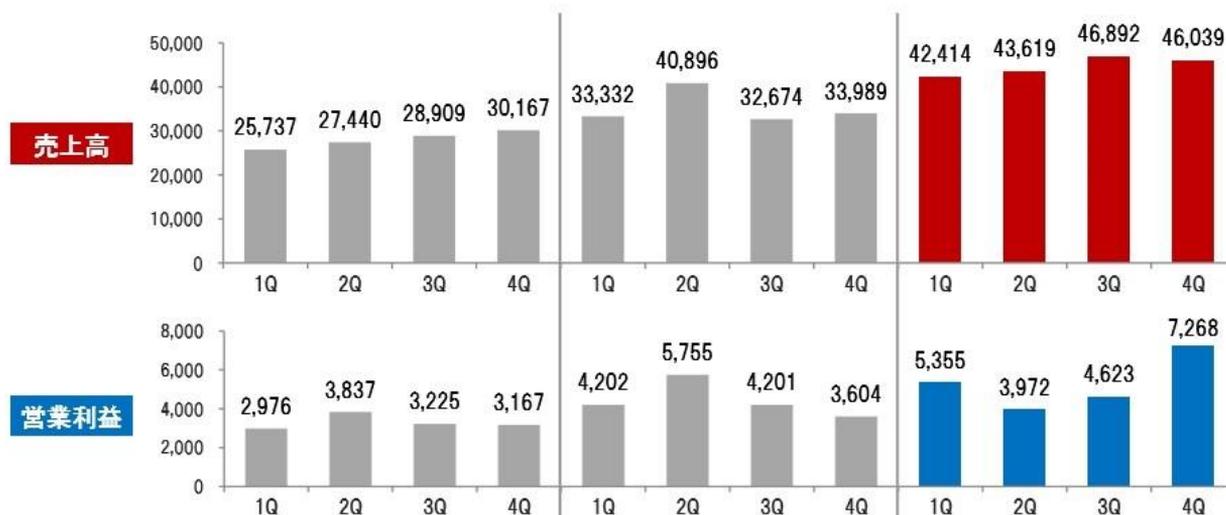
受注状況につきましては、旺盛な製品需要が継続しており、受注高は 60 億 200 万円増加の 2,358 億 6,400 万円となり、受注残高は 568 億 9,800 万円増加の 1,907 億 4,700 万円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

四半期毎の売上高・営業利益

単位:百万円



為替レート	2021年2月期				2022年2月期				2023年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
円/米ドル	108.44	106.90	105.19	104.01	108.89	109.96	110.66	114.70	121.43	133.43	143.54	134.12
円/英ポンド	135.64	133.65	136.89	140.48	151.26	153.60	152.21	154.07	157.87	163.51	166.55	163.00
円/ユーロ	120.10	120.70	123.89	125.77	130.43	131.70	130.56	129.41	133.83	138.77	142.85	142.51
円/人民元	15.50	15.10	15.28	15.76	16.45	17.07	17.08	17.90	18.56	19.70	20.11	19.60

Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

5

5 ページをご覧ください。四半期ごとの売上高と営業利益の推移です。

為替レートが円安に推移したことが追い風となり、当第3四半期、第4四半期ともに売上高は高水準となりました。

第2四半期と第3四半期は、海上運賃が高騰のまま推移したため、営業利益が抑制されたのに対し、第4四半期は円安の影響と海上運賃が値下がり傾向に転じたことで、四半期としては過去最高となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

地域別売上高 (2023年2月期・実績)

単位:百万円	2022年2月期		2023年2月期					
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
■ 日本	2,832	2.1%	1,156	879	2,036	1.1%	△795	△28.1%
■ 北米	68,706	48.8%	47,192	51,313	98,506	55.0%	+29,800	+43.4%
■ 欧州	65,749	46.7%	35,418	38,488	73,906	41.3%	+8,157	+12.4%
■ アジア	153	0.1%	277	218	495	0.3%	+342	+222.8%
■ その他	3,449	2.4%	1,987	2,032	4,020	2.2%	+570	+16.5%
売上高合計	140,892	100.0%	86,033	92,932	178,966	100.0%	+38,074	+27.0%
海外売上高	138,060	98.0%	84,876	92,053	176,930	98.9%	+38,870	+28.2%



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

6

6 ページをご覧ください。地域別の売上高です。

北米の売上高は 298 億円増加の 985 億 600 万円、欧州の売上高は 81 億 5,700 万円増加の 739 億 600 万円となりました。

販売台数が北米では 15.5%増加、欧州では 4.7%増加し、さらに両地域とも値上げと円安の影響等により前年同期を大きく上回りました。

その他の地域につきましては、ご覧のとおりでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

所在地別セグメント情報 (2023年2月期・実績)

単位:百万円	2022年2月期		2023年2月期					
	通期	利益率	上期	下期	通期	利益率	増減額	増減率
日本売上高	48,981	—	29,448	31,210	60,658	—	+11,677	+23.8%
セグメント利益	12,449	25.4%	5,739	7,469	13,209	21.8%	+760	+6.1%
米国売上高	68,712	—	47,192	51,313	98,506	—	+29,793	+43.4%
セグメント利益	6,345	9.2%	4,980	4,915	9,895	10.0%	+3,550	+56.0%
英国売上高	13,923	—	6,022	6,107	12,130	—	△1,793	△12.9%
セグメント利益	1,256	9.0%	510	591	1,101	9.1%	△155	△12.3%
フランス売上高	9,207	—	3,282	4,240	7,523	—	△1,684	△18.3%
セグメント利益	623	6.8%	236	445	682	9.1%	+59	+9.6%
中国売上高	66	—	87	60	147	—	+81	+122.7%
セグメント利益	85	—	△13	33	20	13.8%	△64	△76.1%

- ▶ 日本セグメント (竹内製作所)
 - ・ 建設機械の開発、製造
 - ・ 日本国内での建設機械の販売 / 欧州及びアジア・オセアニア地域のディストリビューターへの建設機械の販売
 - ▶ 米国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.S.),LTD.)
 - ・ 米国及びカナダでの建設機械の販売
 - ・ **[NEW]** 米国での建設機械の製造
 - ▶ 英国セグメント (TAKEUCHI MFG.(U.K.)LTD.)
 - ・ 英国での建設機械の販売
 - ▶ フランスセグメント (TAKEUCHI FRANCE S.A.S.)
 - ・ フランスでの建設機械の販売
 - ▶ 中国セグメント (竹内工程機械(青島)有限公司)
 - ・ 中国での建設機械の販売
 - ・ 中国及びアジア向けの建設機械の製造
 - ・ 日本セグメント向けの建設機械の製品(部材)の製造、調達及び販売

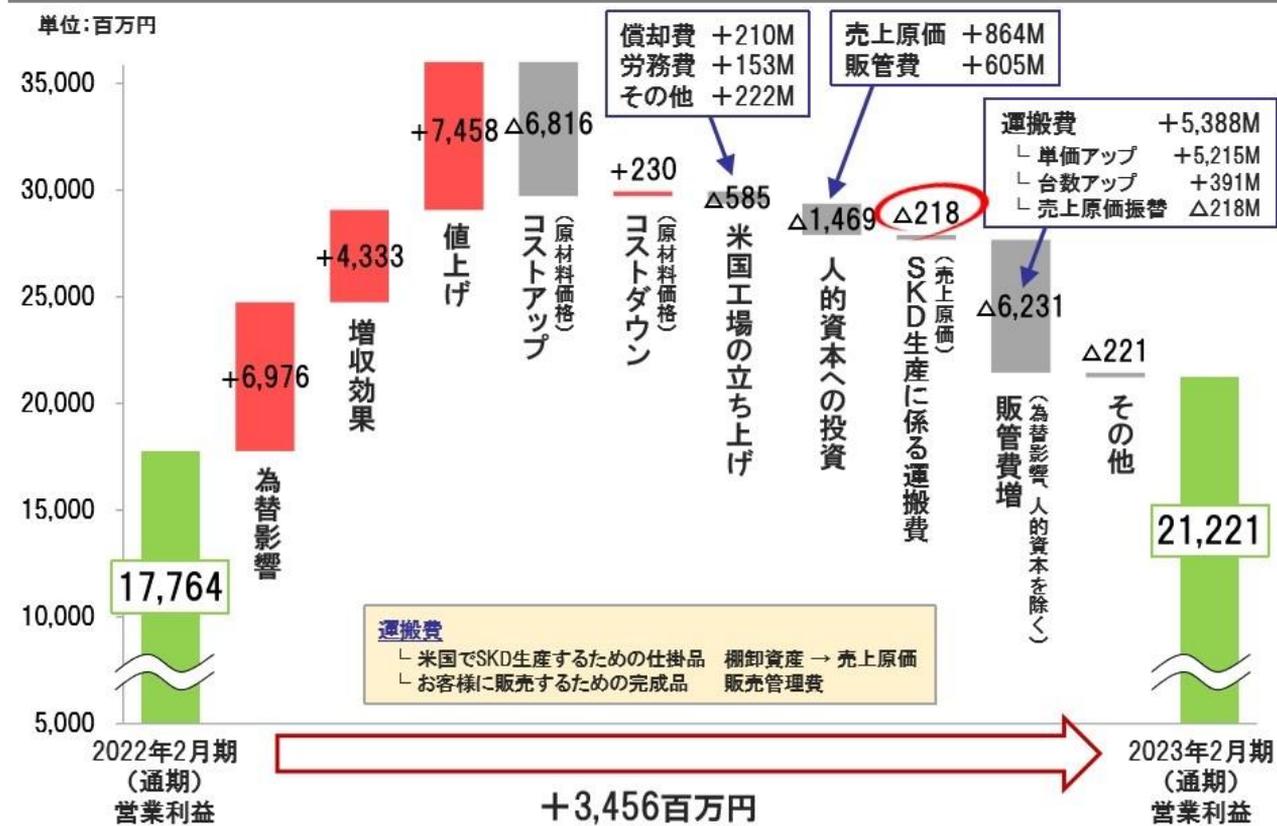
7 ページをご覧ください。

所在地別のセグメント情報につきましては記載のとおりでございますので、ご高覧いただきたいと思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

営業利益増減要因 (2023年2月期・実績)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

8 ページをご覧ください。連結営業利益の増減要因をご説明いたします。

内訳としましては、為替影響で69億7,600万円、増収効果で43億3,300万円、売価の値上げで74億5,800万円の増益となりました。

また、原材料価格のコストアップで68億1,600万円の減益、コストダウンで2億3,000万円の増益となり、さらに米国工場の立ち上げで5億8,500万円、人的資本への投資により14億6,900万円、米国でのセミノックダウン生産に係る運搬費で2億1,800万円、為替影響を除いた販管費の増加で62億3,100万円が、それぞれ減益となりました。この販管費の増加の大部分は、運搬費の増加によるものです。

なお、セミノックダウン生産に係る仕掛品の運搬費2億1,800万円は、販管費から売上原価に振替計上しており、営業利益は変動いたしません。売上原価率の上昇要因となりますので、グラフを別表示してお示ししております。

以上により、その他の要因も含め、営業利益は34億5,600万円増益の212億2,100万円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

連結貸借対照表 (2023年2月28日現在)

単位:百万円		2022年2月28日		2023年2月28日			
		残高	構成比	残高	構成比	増減額	増減率
資産の部	現金及び預金	47,258	34.4%	43,995	27.7%	△3,263	△6.9%
	受取手形及び売掛金	25,737	18.8%	35,739	22.5%	+10,002	+38.9%
	棚卸資産	41,353	30.1%	47,723	30.1%	+6,369	+15.4%
	その他流動資産	2,356	1.7%	3,001	1.9%	+645	+27.4%
	流動資産	116,705	85.1%	130,459	82.2%	+13,754	+11.8%
	固定資産	20,496	14.9%	28,326	17.8%	+7,830	+38.2%
合計		137,201	100.0%	158,785	100.0%	+21,584	+15.7%
負債・純資産の部	支払手形及び買掛金	24,491	17.9%	26,755	16.9%	+2,263	+9.2%
	その他流動負債	8,045	5.9%	9,620	6.1%	+1,575	+19.6%
	流動負債	32,537	23.7%	36,376	22.9%	+3,838	+11.8%
	固定負債	580	0.4%	606	0.4%	+26	+4.6%
	負債合計	33,117	24.1%	36,983	23.3%	+3,865	+11.7%
	純資産合計	104,083	75.9%	121,802	76.7%	+17,718	+17.0%
合計		137,201	100.0%	158,785	100.0%	+21,584	+15.7%

Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

9

9 ページをご覧ください。連結貸借対照表です。

売上高の増加に伴い、受取手形及び売掛金と棚卸資産が大きく増加いたしました。

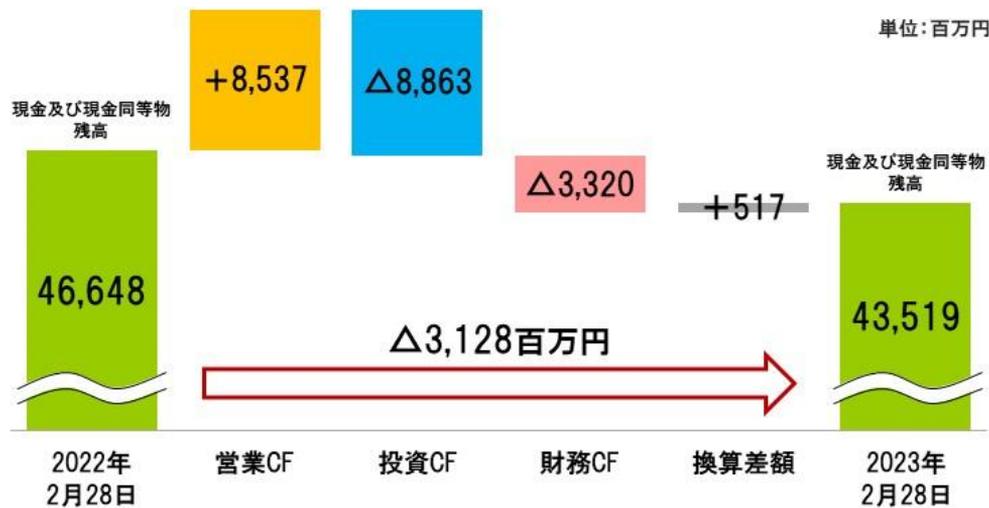
棚卸資産の増加は主に仕掛品の増加によるものですが、これは電子部品が未装着の仕掛品を先行出荷したことに加えて、米国工場でのクローラーローダーの生産開始により、本社工場から出荷されて米国工場まで搬送することで、運搬距離が長くなった仕掛品の台数が増加したことによるものです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結キャッシュ・フロー計算書 (2023年2月期・実績) **TAKEUCHI**

From World First to World Leader



単位:百万円

営業キャッシュ・フロー	増減額	投資キャッシュ・フロー	増減額	財務キャッシュ・フロー	増減額
税金等調整前当期純利益	21,379	定期預金の純(増△)減額	Δ165	配当金の支払	Δ3,246
減価償却費	2,039	有形固定資産の取得	Δ8,766		
たな卸資産の増加	Δ3,205	無形固定資産の取得	Δ235		
運転資金の増加	Δ8,797	有価証券の償還による収入	300		
法人税等の支払	Δ7,098			その他	Δ74
その他	4,220	その他	3		
合計	+8,537	合計	Δ8,863	合計	Δ3,320

Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

10

10 ページをご覧ください。

連結キャッシュ・フロー計算書につきましては記載のとおりでございますので、ご高覧いただきたいと思います。

サポート

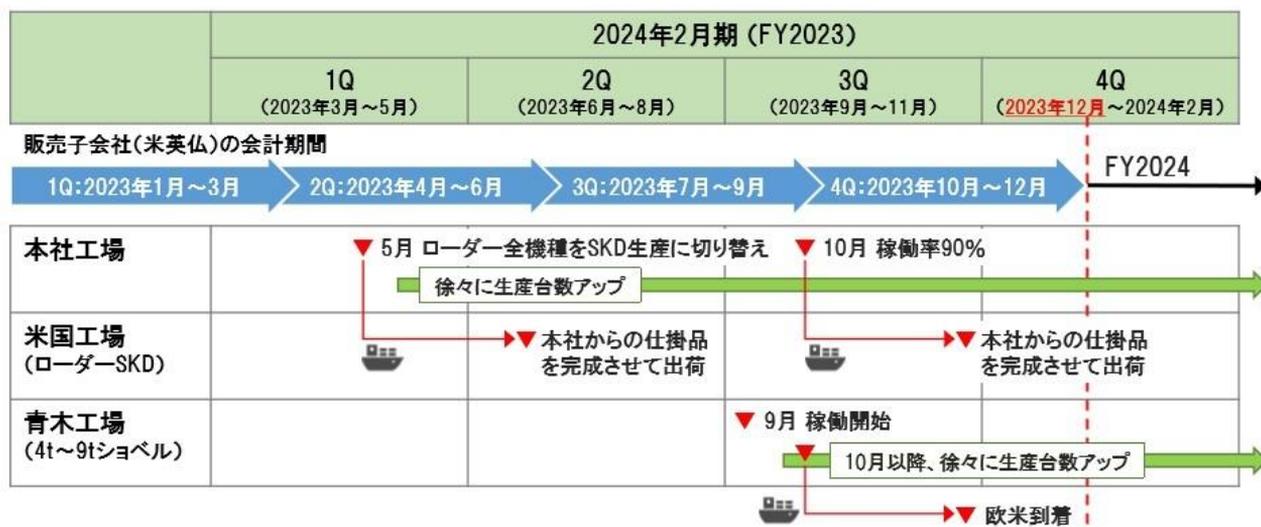
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



(1) 販売台数の見通し

- 北米 **+2.4%増加の予想** (上期:+2.1%増加、下期:+2.7%増加、対前年同期比)
- 欧州 **+1.2%増加の予想** (上期:+2.5%増加、下期:△0.2%減少、対前年同期比)
- トータル **+1.8%増加の予想** (上期:+2.2%増加、下期:+1.3%増加、対前年同期比)

➤ 米国工場、青木工場が販売台数増加に本格的に貢献するのは2025年2月期から



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

12

続きまして、2024年2月期連結業績の通期予想をご説明いたします。

12ページをご覧ください。2024年2月期の業績予想のポイントをご説明いたします。

一つ目のポイントの販売台数の見通しですが、北米で2.4%、欧州で1.2%、トータルで1.8%の増加を見込んでおります。

なお、昨年9月に稼働開始した米国工場と、今年9月に稼働開始を予定している青木工場の生産台数が増加するのは、今期下期以降からと見込んでおり、販売子会社の会計期間や欧米までの輸送期間を勘案すると、両工場での生産品が販売台数の増加に貢献するのは来期の2025年2月期からになると予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

(2) 製品需要 **2024年2月期も好調が続くと見込む**

【定性的な背景】

- 住宅市場は軟化したが、住宅需要そのものは根強い（回復傾向にある）
- 生活インフラの老朽化が進行しており、継続的なメンテナンス工事が必要

【定量的な根拠】

- 前期(12ヶ月間)の受注高 = 2,358億円（過去最高）
- 前期末の受注残高 = 1,907億円（過去最高）

(3) 利益見通し … **増益** を予想（営業利益、経常利益、当期純利益）

- 値上げ（欧米両方）
- 海上運賃の軟化
- 増収効果
- 為替影響（上期はプラス影響）

- 以下の減益要因も見込むが、
- 原材料価格の上昇継続
 - 人的資本への投資（人件費・労務費増）
 - 新工場の減価償却費、経費の増加

13 ページをご覧ください。

二つ目のポイントですが、製品需要は今期 2024 年 2 月期も好調が続くと見込んでおります。住宅市場の需要は根強く、さらに生活インフラの継続的なメンテナンス工事により、当社製品の需要は引き続き底堅いと予想しており、過去最高の受注実績と受注残高がそれを裏付けております。

三つ目のポイントですが、利益見通しは各段階利益とも増益を予想しております。引き続き原材料価格が上昇していること、また人的資本への投資、新工場立ち上げなどの減益要因もありますが、販売価格の値上げや海上運賃の値下がり、増収効果等により増益となる見通しです。

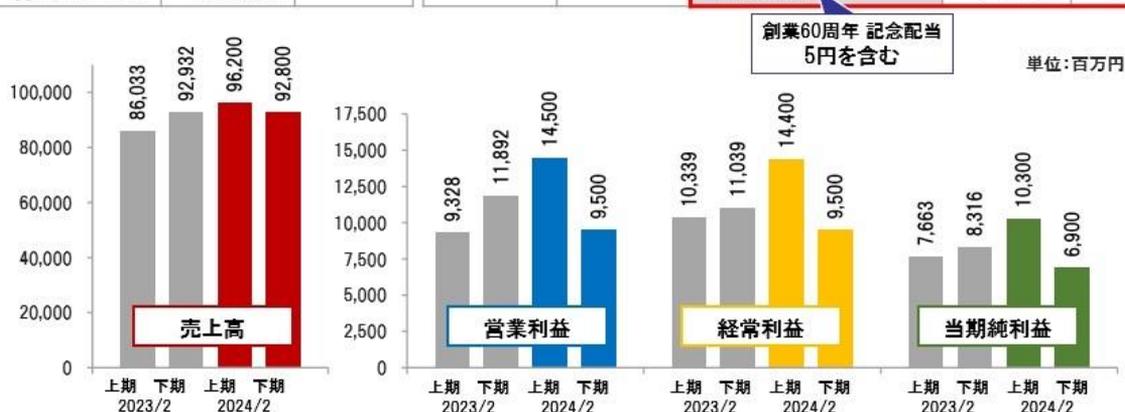
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結業績予想ハイライト (2024年2月期・予想)



単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期(予想)					
	通期	売上比率	上期	下期	通期	売上比率	増減額	増減率
■ 売上高	178,966	—	96,200	92,800	189,000	—	+10,033	+5.6%
■ 営業利益	21,221	11.9%	14,500	9,500	24,000	12.7%	+2,778	+13.1%
■ 経常利益	21,379	11.9%	14,400	9,500	23,900	12.6%	+2,520	+11.8%
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	15,979	8.9%	10,300	6,900	17,200	9.1%	+1,220	+7.6%
設備投資額	8,629	4.8%	1,688	7,362	9,050	4.8%	+420	+4.9%
減価償却費	2,039	1.1%	1,413	2,341	3,754	2.0%	+1,715	+84.1%
1株純利益	335.19円	配当性向 29.2%	—	—	360.83円	配当性向 31.9%	+25.64	+7.6%
1株配当金	98.00円		—	—	115.00円		+17.00	+17.3%



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

14 ページをご覧ください。通期の業績予想ハイライトです。

対前期比で、当社グループ全体の販売台数は通期で1.8%増加し、売上高は100億3,300万円増加の1,890億円、営業利益は27億7,800万円増加の240億円と予想しております。

サポート

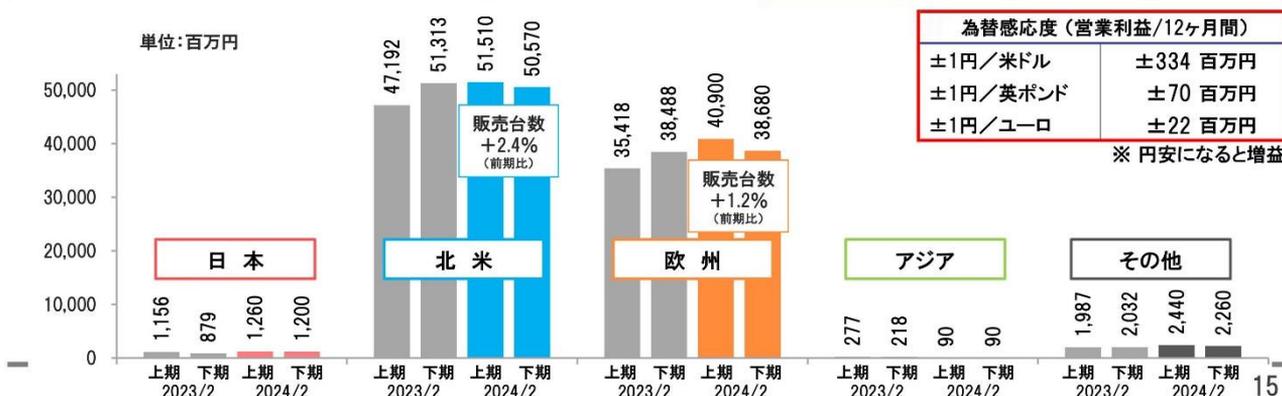
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



地域別売上高予想 (2024年2月期・予想)



単位:百万円	2023年2月期		2024年2月期(予想)					
	通期	構成比	上期	下期	通期	構成比	増減額	増減率
■ 日本	2,036	1.1%	1,260	1,200	2,460	1.3%	+423	+20.8%
■ 北米	98,506	55.0%	51,510	50,570	102,080	54.0%	+3,573	+3.6%
■ 欧州	73,906	41.3%	40,900	38,680	79,580	42.1%	+5,673	+7.7%
■ アジア	495	0.3%	90	90	180	0.1%	△315	△63.7%
■ その他	4,020	2.2%	2,440	2,260	4,700	2.5%	+679	+16.9%
売上高合計	178,966	100.0%	96,200	92,800	189,000	100.0%	+10,033	+5.6%
円/米ドル	133.12	—	127.00	127.00	127.00	—	△6.12円	—
円/英ポンド	162.58	—	154.00	154.00	154.00	—	△8.58円	—
円/ユーロ	139.81	—	136.00	136.00	136.00	—	△3.81円	—
円/人民元	19.49	—	18.70	18.70	18.70	—	△0.79円	—



15 ページをご覧ください。

通期の地域別売上高予想は記載のとおりでございますので、ご高覧いただきたいと存じます。

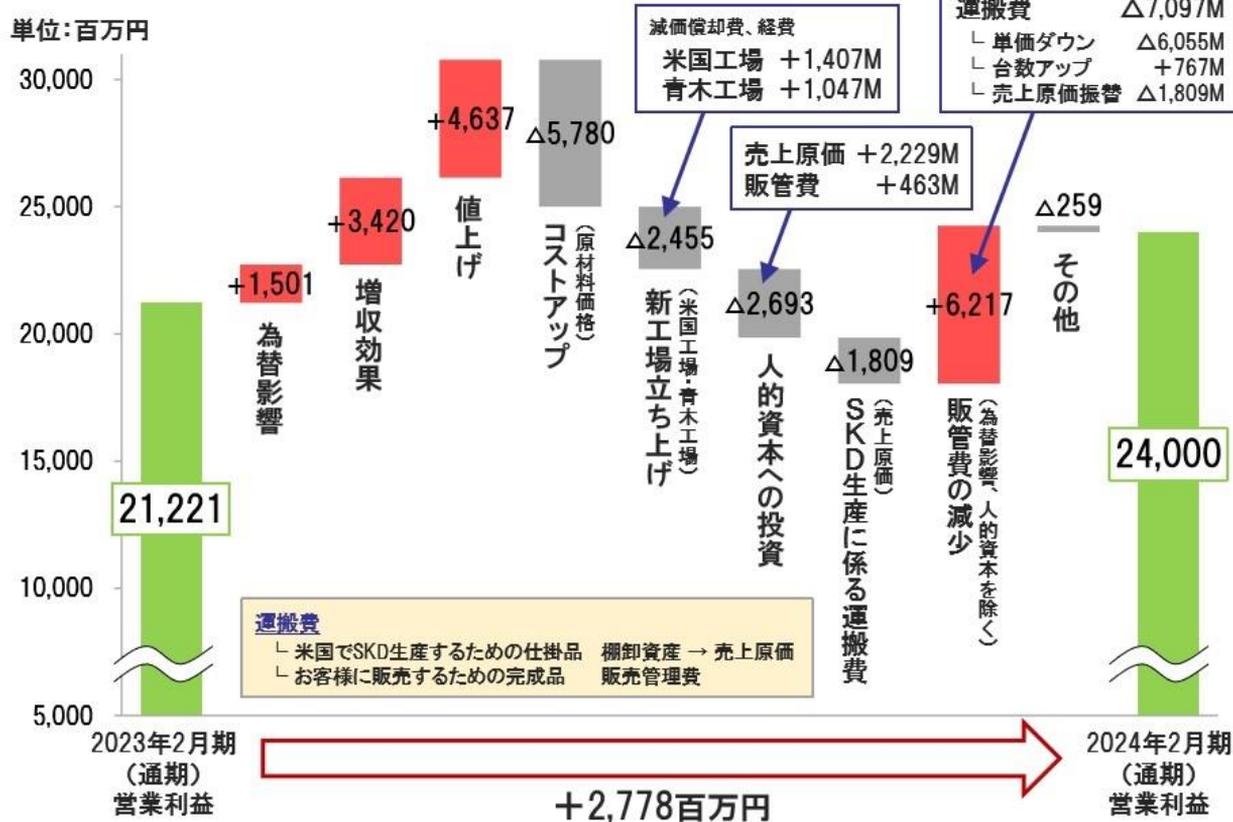
なお、営業利益における1年間の為替感応度は、米ドルが3億3,400万円、ポンドが7,000万円、ユーロが2,200万円を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



営業利益増減要因 (2024年2月期・予想)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

16

16 ページをご覧ください。連結営業利益の通期予想の増減要因をご説明いたします。

内訳としましては、為替影響で15億100万円、増収効果で34億2,000万円、売価の値上げで46億3,700万円の増益を見込んでおります。

また、原材料価格の上昇等のコストアップで57億8,000万円、米国工場、青木工場の稼働開始に伴う償却費および経費の増加で24億5,500万円、人的資本への投資としての、主に人件費の引き上げで26億9,300万円の減益をそれぞれ見込んでおります。

また、運搬費で70億9,700万円の減少を含む販管費は、62億1,700万円の減少による増益を見込んでおります。

なお、このうちのセミノックダウン生産に係る運搬費18億900万円の増加は、先ほど8ページでご説明したような売上原価への振替計上分として、グラフを別表示しております。

以上により、その他の要因も含め、連結営業利益は27億7,800万円増加し、240億円になると予想しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

なお、円高の前提為替レートにもかかわらず、為替影響で15億円ほどの増益を見込んでいるのは、主に欧州ディストリビューター向けの為替変動見合いの価格変更によるものです。

欧州ディストリビューターとは円建ての取引をしており、その販売価格は円対ユーロの為替相場により変動いたします。販売価格は過去の円/ユーロの平均レートを参照して決定されるため、為替変動の影響にはタイムラグが生じます。

この結果、2022年下期の急激な円安、ユーロ高の影響が当上期に出てくることとなり、増益の要因となっております。

また、原材料価格で57億8,000万円の減益を見込んでいるのは、サプライヤー様において、昨今の物価高の影響で鋼材をはじめとする材料費の高騰に加え、人件費や諸経費も上昇していることによるものです。

以上をもちまして、私からのご説明とさせていただきます。

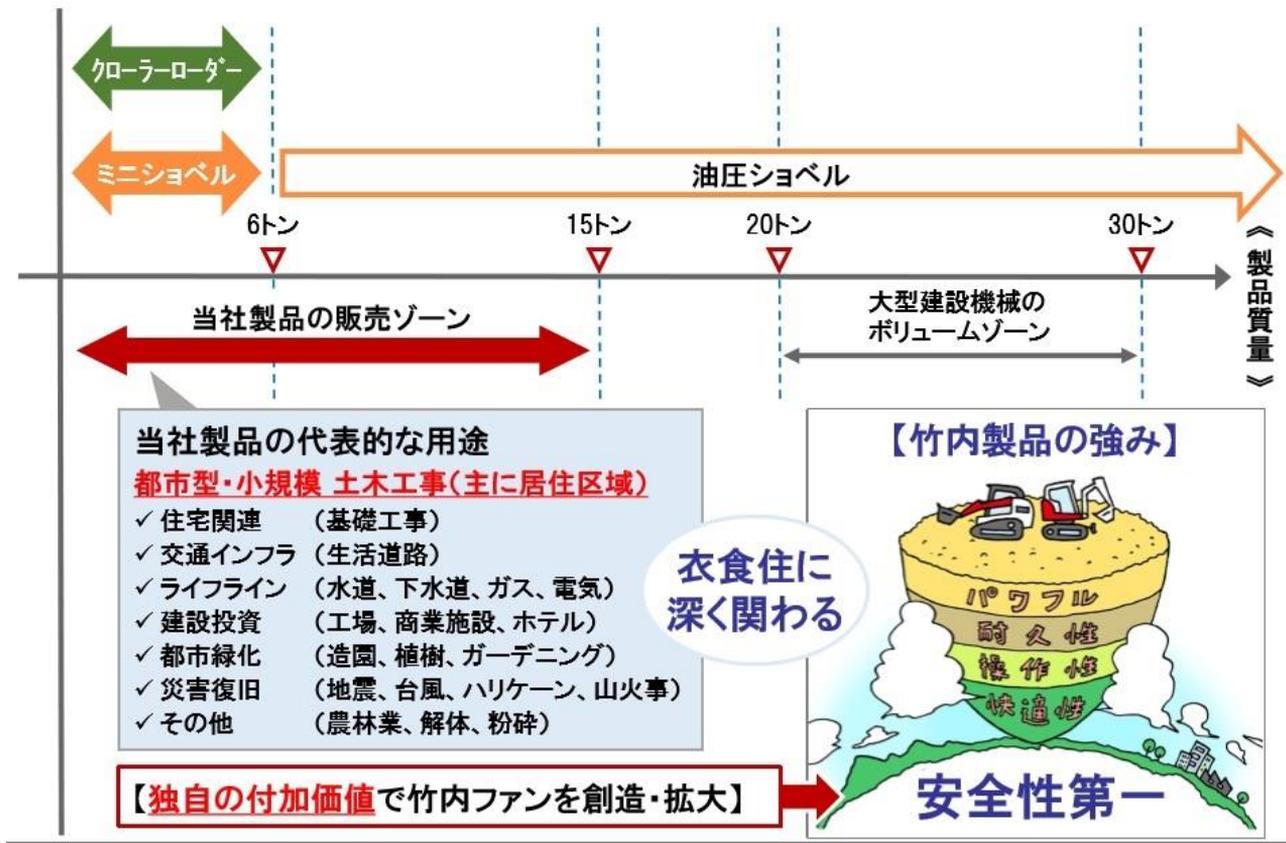
ここから先は、社長の竹内よりご説明させていただきます。

司会：続きまして、社長の竹内よりご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com





Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

18

竹内：代表取締役社長の竹内でございます。私から、第三次中期経営計画の進捗状況についてご説明いたします。

18 ページをご覧ください。改めまして、当社グループの市場ポジションについてご説明いたします。

大型の建機が丘を切り崩したり、トンネルを通したり、大規模な工事で使用されるのに対して、当社製品は住宅関連工事、道路工事、水道管やガス管などのインフラ工事、そして自然災害からの復旧工事などに使用されております。

快適な家に住み、蛇口をひねればきれいな水が出る。スイッチを入れれば電気がつく。当たり前のように繰り返される毎日の暮らしを支え、衣食住の住に深く関わっているのが当社製品なのです。

サポート

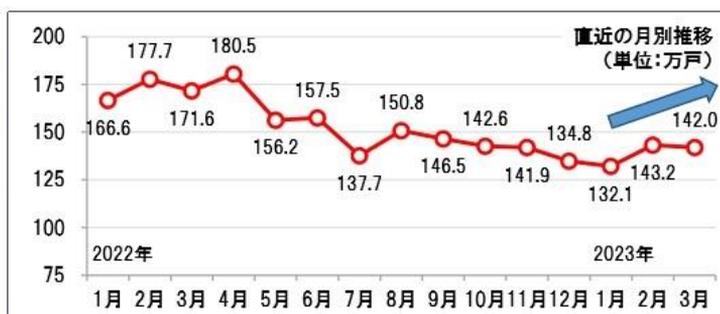
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

▶ 米国の住宅着工件数



2022年3月、米国FRBがゼロ金利政策を解除
↓
住宅ローン金利の高止まりと物価高の影響を受けて、米国の住宅着工件数は減速

住宅需要は根強い
(時期の見合わせ → いずれ回復に転じる)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

19

19 ページをご覧ください。ここでお示ししているのは、米国での住宅着工件数の推移です。

皆様もご承知のとおり、2022 年は金利の引き上げや建材不足により、米国の住宅着工件数は減少しました。しかし、長期スパンで見ると 2022 年度は決して低い水準ではなく、2023 年に入ると回復に転じています。

2022 年の減速は購入時期を見合わせた結果であり、住宅需要そのものは根強いと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

中長期的な将来展望

世界人口の推移

出所:国際連合・経済社会局(2018年)



- 世界的に都市人口は増加しており、今後も衰える気配はない
- 都市機能(生活インフラ等)は老朽化が進み、メンテナンス工事が不可欠

11 住み続けられるまちづくりを

都市 → 雇用や豊かさを創出する

地球環境に負担をかけ過ぎることなく、人口過密や住宅不足、インフラ老朽化を解消し、公衆衛生を向上させる必要がある



- グリーントランスフォーメーション(GX) → 社会インフラの刷新が必要
脱炭素に向けた社会的・経済的な変容・変革 **建設需要の高まり & 新たな建機需要**



20 ページをご覧ください。ここでお示しするグラフは、コロナ前に国連が公表した推計です。

リモートワークなど、コロナにより地方への分散が進んだとはいえ、雇用や豊かさを創出する都市の社会的、経済的な役割は依然として大きいまです。都市部での人口過密や住宅不足、インフラ老朽化の解消は、解決すべき社会課題であると考えております。

さらには、グリーントランスフォーメーション関連の製品需要が新たに芽生えようとしています。例えば脱炭素に向けては、発電インフラは火力発電から太陽光、風力、水力発電などの再生可能エネルギーへとシフトし、自動車が電気で走るようになると、充電スタンドが必要になります。大容量の電気が必要になれば、送電インフラも容量を大きくする必要があります。

私たちが展望する建設機械市場は、明るく、希望にあふれています。夢のような話をしているのではありません。私は米国、欧州の子会社、ディストリビューターとお話ししたのですが、当然彼らも住宅市場が足元で減速していることに懸念を持っています。しかし、それ以上にインフラ建設工事での需要が強く、より多くの注文を入れたいと言ってくれております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



彼らはエンドユーザーから多くの注文を受けていますが、当社の生産能力が上限に達し、当社が受注に制限をかけているため、彼らは注文を控えている状況です。彼らもまた、米国工場、青木工場を心待ちにしているのです。

今期、来期といった短期的な展望だけでなく中長期的な考えでも、当社の製品需要は安定拡大が見込めると考えております。

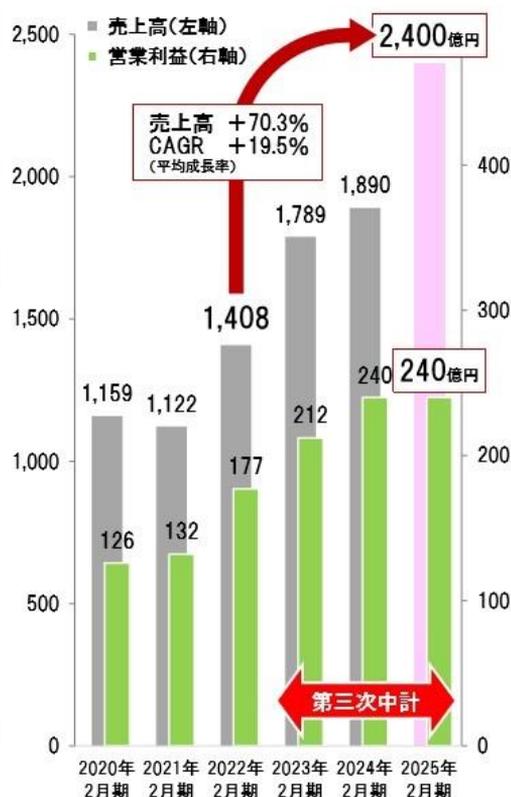
スローガン、数値目標

TAKEUCHI
From World First to World Leader

パワーアップ、スピードアップ、スケールアップで
売上1,000億円アップにチャレンジする。
(連結売上高 1,408億円 → 2,400億円)

	2022年 2月期	2025年 2月期	増減率
売上高	1,408億円	2,400億円	+70.3%
営業利益 └ 営業利益率	177億円 12.6%	240億円 10.0%	+35.1%
1株当たり当期純利益	279.91円	377.00円	+34.7%
ROE (自己資本利益率)	13.8%	14.0%	—
米ドル	111.72円	115.00円	+3.28円
英ポンド	153.06円	152.00円	△1.06円
ユーロ	130.57円	127.00円	△3.57円
人民元	17.12円	18.00円	+0.88円

※ 以下のCAPM算定式を基準として、株主資本コストを8%と認識しております。
リスクフリーレート(1%) + β値(1.2) × マーケットリスクプレミアム(6%)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

21

21 ページをご覧ください。第三次中期経営計画の数値目標です。

2025年2月期に、連結売上高 2,400 億円を達成することが目標です。製品需要は依然として強いのですが、今期は踊り場的な我慢の1年となる予想です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

基本方針:

- ✓ 人財こそが企業力の源泉、人への配分は**未来への投資**
- ✓ **中期経営計画の達成**に必要な人財の確保

投資額
(2025年2月期)

38億円

➔ **増員:23億円、賃上げ:15億円**

2022年2月期と比較した2025年2月期の
人件費の増加額（製造原価、販管費）

事業拡大

人的余裕（教育、ワークライフバランス）

	2022年2月28日現在			2023年2月28日現在		
	従業員数	臨時雇用	合計	従業員数	臨時雇用	合計
竹内製作所	557	386	943	612	393	1,005
Takeuchi US	125	2	127	204	3	207
Takeuchi UK	24	1	25	22	1	23
Takeuchi France	21	1	22	20	2	22
竹内青島	190	37	227	195	22	217
合計	917	426	1,343	1,053	419	1,472

臨時雇用 … 常用パート、パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節従業員など

22 ページをご覧ください。人的資本への投資です。

人のパワーアップなくして、当社の成長はあり得ません。中計初年度の2023年2月期におきましては、金額面では約16億円、臨時雇用の方を含めた従業員数は1,343名から129名増加して、1,472名となりました。

青木工場、米国工場での生産台数の増加と併せて、竹内製作所とTakeuchi USでは今後も増員する計画です。

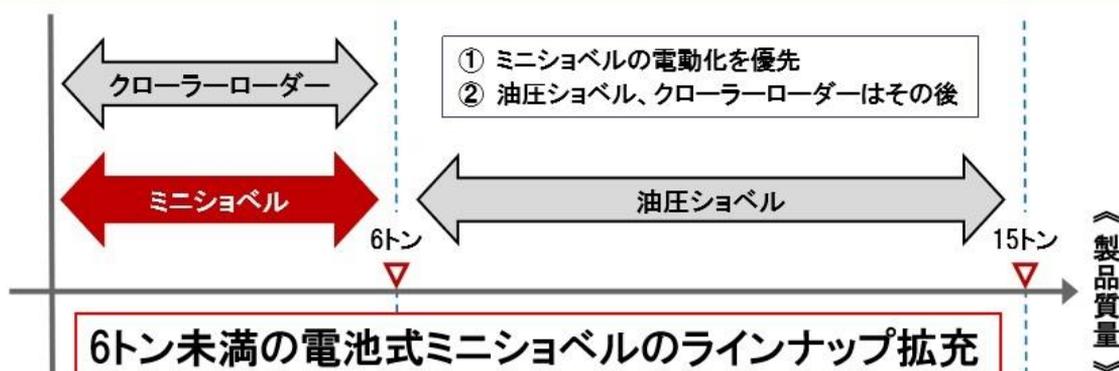
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

- Connected (コネクテッド) TFM、Takeuchi Connectの機能拡充によるCS向上
- Autonomous (自動運転) 「一定の作業を機械が自動的に行う機能」の実装
- Sharing & Services (シェア)
- Electric (電動化) 電池式ショベルのラインナップの拡充
電池式クローラーローダーの開発

オープンイノベーション

電動化や自動化に向けた先進技術の研究開発にあたっては、
他社連携、産学連携を視野に入れて取り組んでいく



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

23

23 ページをご覧ください。製品開発の加速です。

自動車と同じくエンジンを搭載する建設機械においても、同様の技術革新が求められていると考えています。

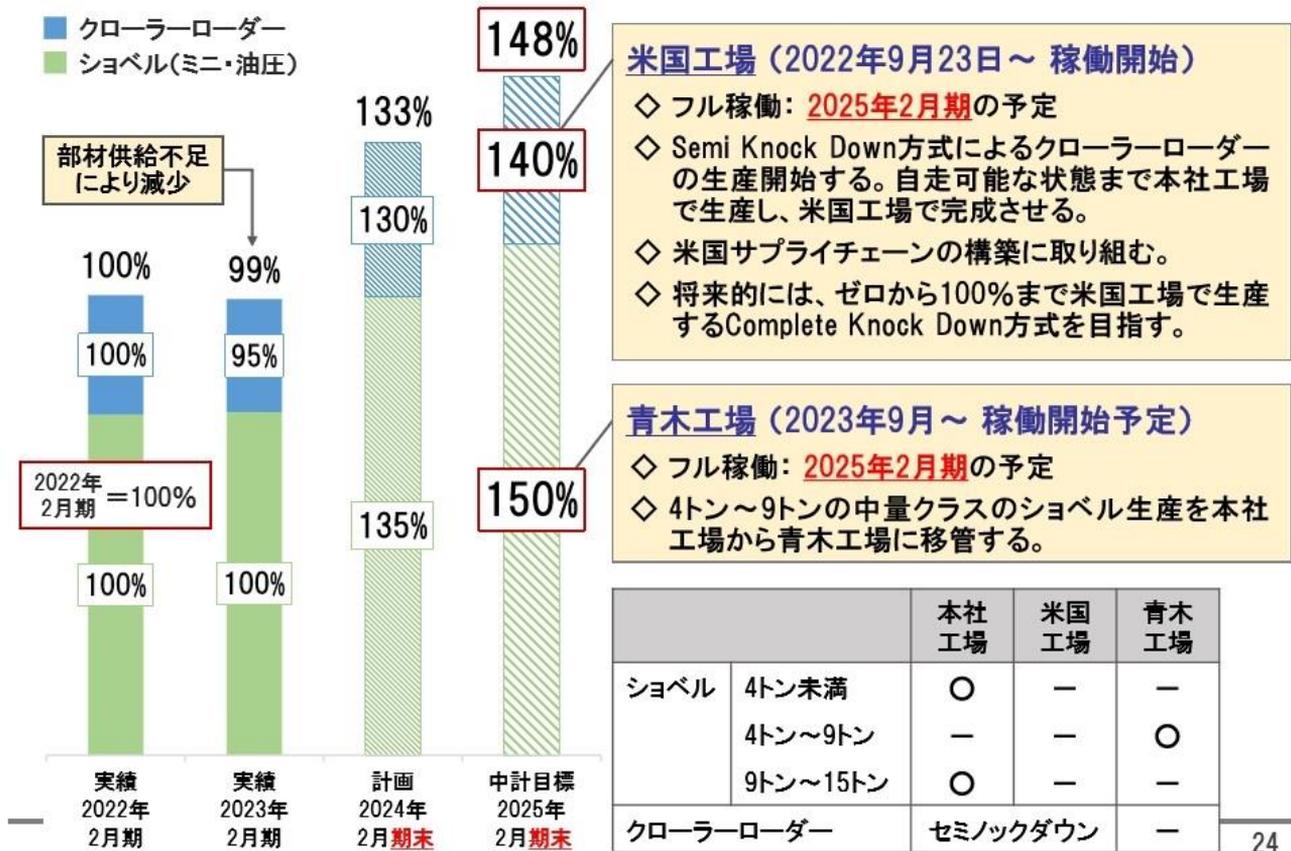
コネクテッドの分野では、建設機械を遠隔監視する TFM、当社グループとお客様をインターネットでつなぐ Takeuchi Connect の機能を強化し、顧客満足度の向上を図ります。

自動運転の分野では、例えば 1メートルの深さで掘るといった一定の作業をボタン一つで機械が自動的に行う機能の開発に取り組んでいます。工事現場では人手不足、技量不足が問題になっており、遠隔運転や無人運転より先にこのような自動運転のニーズが高いと考えています。

電動化につきましても、まずは 6 トン未満の電池式ミニショベルのラインナップ拡充に取り組みます。大型ショベル、クローラーローダーは必要とするバッテリー容量が高いため、その分、電動化のハードルも高くなると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



24 ページをご覧ください。生産能力の増強です。

米国工場につきましては、2022年9月に稼働を開始しましたが、想定していたようには生産台数を上げることができておらず、フル稼働時期を2024年2月期から2025年2月期に見直しました。

青木工場につきましては、2023年9月から稼働を開始し、10月から徐々に生産台数を上げていく計画です。フル稼働時期は2025年2月期を予定しております。

これら二つの新工場と、そこで働く従業員のパワーアップにより、2025年2月期末には当社グループの生産能力は48%増加し、中計目標である連結売上高2,400億円の達成を目指します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

青木工場 (建設工事の進捗状況)

TAKEUCHI
From World First to World Leader



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

25

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

青木工場（建設工事の進捗状況）

TAKEUCHI
From World First to World Leader

2023年4月撮影

2023年9月稼働開始予定

- ▶ 敷地面積 約50,000㎡
- ▶ 建築面積 約27,800㎡
- ▶ 延床面積 約31,600㎡

消費電力の大部分を太陽光発電でまかなう。
CO2フリー電力と合わせて、**100%再生可能エネルギーで工場操業**

Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

26

25 ページおよび 26 ページをご覧ください。青木工場の工事の進捗状況です。

26 ページの写真では、屋根の大部分が太陽光パネルで覆われているのをご確認いただけるかと思
います。消費電力の大部分を太陽光発電でまかない、CO2フリー電力と合わせて、100%再生可能
エネルギーで工場を操業します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

生産能力の増強に呼応し、欧米先進国を中心に販売拡大

北米

- ◇ 米国工場の稼働開始によるクローラーローダーの増産&拡販

北米・欧州共通

- ◇ 青木工場の稼働開始によるショベル(ミニ・油圧)の増産&拡販
- ◇ 新製品の投入(電池式を含む)による竹内ファンの拡大、CS向上

アフターパーツ

- ◇ 米国、欧州にアフターパーツ倉庫を開設済み
- ◇ 純正部品のメリット訴求(ブランディング→安心)
- ◇ 第二純正部品の販売促進(競争力のある価格設定)

純正部品 新車に装着している部品と同じもの
 第二純正部品 新車に装着している部品とは異なるが、当社が品質保証するもの



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

27 ページをご覧ください。アフターセールスについてお話しさせていただきます。

新年度の2023年3月1日付で、アフターセールスサポート部を設立しました。米国でのアフターセールスは、Takeuchi USにより推進し、オランダに開設したパーツセンターを起点とした欧州ディストリビューター向けの拡販は、本社のアフターセールスサポート部により推進したいと考えております。

壊れにくく丈夫であることが当社の製品の強みですが、保守メンテナンスで純正部品ではないものが装着されると、そのクオリティが維持されなくなります。そのことをしっかりとお客様に伝え、アフターセールスを拡大していきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

▶ 2023年3月14日(火)～18日(土)



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

28

28 ページをご覧ください。

建設機械の世界3大展示会の一つである「CONEXPO」がラスベガスで開催され、14万人来場しました。コロナ禍を乗り越え、市場の盛況ぶりを映し出しているようでした。

Takeuchi US のブースでは、電動ミニショベル「TB20e」を含め、全16台を展示しました。当社製品の良いところや改善してほしいところなど、多くのフィードバックをいただき、お客様との関係は一層強固なものとなりました。

この展示会で得たご意見をもとに、顧客目線での製品開発を続けていく考えです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ESG課題に対する目標

	社会課題	何を	いつまでに	どれだけ・どうする	
1	E 気候変動	製品からのCO2排出量	2030年度 (2010年度比)	原単位で30%削減する	
2		工場からのCO2排出量	2030年度 (2015年度比)	原単位で50%削減する	
3	S 労働安全衛生	1日以上休業を伴う労働災害	毎年度	ゼロ件にする	
4	S 人財育成	1人当たりの研修時間	毎年度	開示する	
5		ワークライフバランス	育児休業の取得率(男女別)	毎年度	開示する
6		児童労働	CSR調達方針の同意書回収率	毎年度	95%以上にする
7	G ダイバーシティ	① 女性取締役(※) ② 女性管理職比率 ③ 子会社の管理職ローカル比率	① 2023年度 ② 2030年度 ③ 毎年度	① 1名選任する ② 男性管理職比率と同率にする ③ 開示する	

※ 女性取締役ににつきましては、2023年5月25日開催の定時株主総会にて選任議案を上程（社外取締役、監査等委員である取締役）

<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>当社グループの事業そのもの</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p> <p>GHG排出削減、TCFD対応 目標①②</p>	<p>8 働きがいも経済成長も</p> <p>健康・安全・ワークライフバランス 目標③④⑤⑥</p>	<p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> <p>ダイバーシティ&インクルージョン 目標⑦</p>
--	---	--	--

Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

29

29 ページをご覧ください。

ESG 課題に対して、当社グループが設定した目標はご覧のとおりです。

特に気候変動は待ったなしの状況にあります。電池式ミニショベルのラインナップ拡充のほかに、本社工場、青木工場、さらには米国工場にも太陽光パネルを設置します。これら三つの工場は、CO2フリー電力と合わせて、100%再生可能エネルギーで操業する予定です。

女性取締役ににつきましては、今年5月の株主総会にて選任議案を上程します。この方は、特に人事面で豊富な経験をお持ちです。目標3から7に関して、有効かつ本質的な助言をいただけると期待しています。

サポート

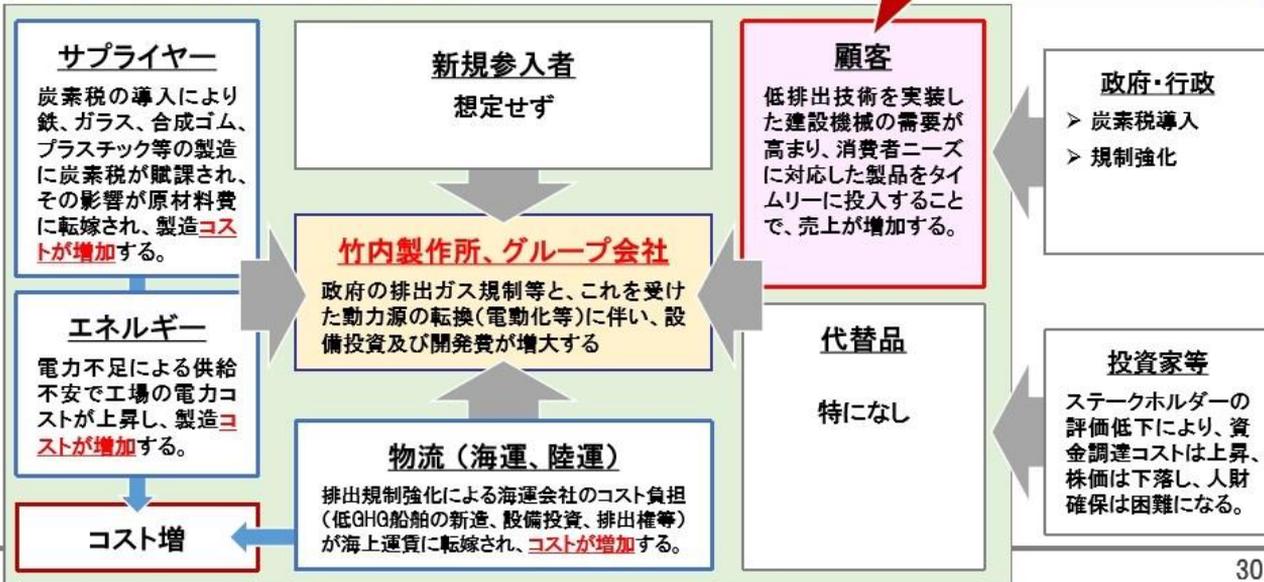
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

気候変動への取り組み（シナリオ分析 → 対応策）

2°Cシナリオ（持続可能性重視）	4°Cシナリオ（現行推移・なりゆき）
<ul style="list-style-type: none"> ■ 炭素税の導入・課税強化 ■ 排出ガス規制、GHG排出規制等が大幅に強化 ■ 脱炭素に対する消費者意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大幅な規制強化はない ■ 台風・洪水等の異常気象による被害拡大

【2°Cシナリオ、2030年の世界観】

- 対応策
- ◇ 建機の電動化
 - ◇ 低GHG燃料の建機開発
 - ◇ エンジン式建機の燃費改善



30

30 ページをご覧ください。気候変動に関するシナリオ分析です。

2°Cシナリオの世界観においては、顧客の環境志向の変化がキーとなります。だからこそ、建設機械の電動化は最大の開発テーマであり、最重要の経営課題と認識しております。

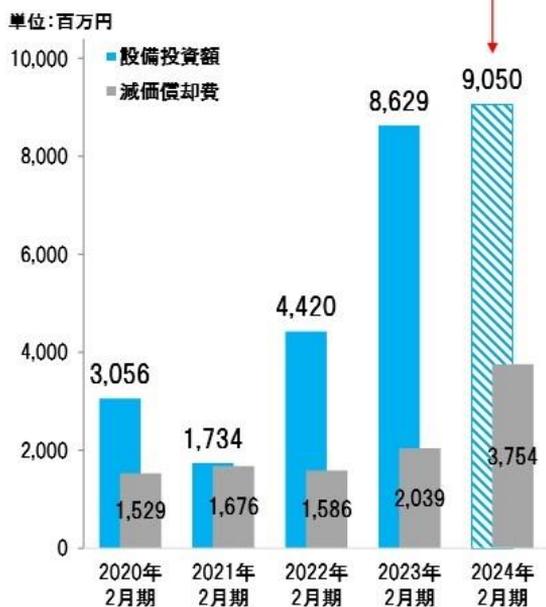
また、物流における温室効果ガスの排出規制が強まり、物流コストが増加するとの分析結果にも注目しています。

米国工場は、今はセミノックダウン方式ですが、将来的にはコンプリートノックダウン方式による地産地消を目指しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

設備投資計画



◇2024年2月期 設備投資計画の内訳

青木工場	50億円	当期支払い分 既支払い分(建仮)	50億円 60億円
竹内US	15億円	太陽光パネル ↳ US本社、米国工場 スラットコンベア 付属設備、機械装置	4.8億円 4.5億円 4.0億円 ほか
社員寮	15億円	本社工場、青木工場の隣地に建設	
その他	10億円	治具、金型、試作機、設備の維持更新	
合計	90億円		

2021年2月期 Takeuchi US 倉庫増築(約5.4億円) 2022年2月期 USTレーニングセンター(約5億円)



2023年2月期 **[NEW]**
米国工場(約47億円)



2024年2月期 **[NEW]**
青木工場(約110億円)



◇2023年2月期 設備投資の内訳

青木工場	30億円	当期支払い分(建仮) 30億円 既支払い分(建仮) 30億円
米国工場	47億円	土地・建物・付属設備
その他	10億円	治具、金型、試作機、設備の維持更新
合計	87億円	

31 ページをご覧ください。

今期は、90億5,000万円の設備投資を計画しています。

Takeuchi US では、本社と米国工場の両方で太陽光パネルを設置する計画です。米国工場においては、生産台数の増加に向け、スラットコンベアのほか、付属設備や機械装置を設置する計画です。

また、青木工場や本社工場での人財確保に向けて、社員寮の建設も計画しております。

減価償却費につきましては、米国工場で6億円、青木工場で7億6,000万円の増加を見込み、37億5,400万円となる見込みです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元、連結配当性向

基本方針： 経営体質の強化並びに今後の事業展開に必要な内部留保を確保しつつ、**連結配当性向30%を目安**として、安定した配当の継続に努める。

自己株取得： 株価水準や資本効率等を勘案のうえ、**自己株式の取得**を適宜実施する。



Copyright© TAKEUCHI MFG. CO.,LTD. All rights reserved

32

32 ページをご覧ください。株主還元についてお話しさせていただきます。

今期の1株当たり当期純利益は、360円83銭を予想しており、普通配当110円の配当性向は30.5%になります。これに創業60周年の記念配当5円を加えまして、今期の期末配当予想は1株当たり115円としました。

以上をもちまして、私からのご説明とさせていただきますが、最後にお伝えしたいことがあります。

今年の8月で当社は60周年を迎えます。これまでのご協力、ご愛顧に感謝申し上げます。振り返りますと、リーマンショックなどの難局がありましたが、乗り越えることができました。

前期は鋼材価格や運送費の上昇などがあり、目標達成が難しい状況でしたが、為替の追い風、増産効果、製品の値上げなどもあり、過去最高の売上、利益を出すことができました。

この先ですが、依然として半導体不足や部材価格の上昇は続くと考えておりますが、欧州、北米の市場動向は良く、まだまだたくさんの注文をいただいております。今のところ、為替も追い風の状況

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

にあり、輸送価格もダウンしてきており、今期も良い結果が残せるのではと、手応えを感じております。

青木工場の稼働もこの9月から始まります。お客様からは、もっと機械が早く欲しいという声はまだまだ続いております。また、機械の増産は、われわれの工場だけで可能になるわけではありません。併せて、サプライヤー様での増産や、新規取引先の協力も必要です。既に各社で準備を完了し、当社への納入体制を整えている段階かと思っております。この場を借りて、サプライヤー様のご協力に対しても感謝申し上げます。

説明の中でも申し上げました、将来に向かっては積極展開していきます。SDGsを念頭に、自然環境や職場環境の改善にも積極的に取り組んでまいります。中でも、建機のバッテリー化やリサイクル化、自動運転化が進むと見ております。これらの先進技術にも取り組み、スピードアップを図り、製品化を進めてまいります。

投資家、関係者の皆様には、引き続きご愛顧、ご支援を賜りますようお願いしまして、締め言葉といたします。

本日は誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com